

コープみらい

[CO-OP MIRAI CHIBA INFORMATION]

ちばインフォメーション

7/27
2020

編集 コープみらい 千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL:043-301-6684 FAX:043-301-6685 ホームページ コープみらい で検索!

ちばインフォメーションの誌面で募集している催し物、講座のお申し込みの際にお預かりした個人情報、お申し込みの受付、詳しい資料やご案内の送付、必要なご連絡のために使わせていただきます。



明日への希望を応援しよう! 「フードバンクちば」の活動



食べ物が余ってませんか?
食べ物に困ってませんか?

品質に問題がないのに廃棄せざるをえない食品を、企業や個人から寄付していただき、必要としている方にお届けしているフードバンク。コープみらいはこの活動を応援し、組合員の皆さんからもたくさんの食品を寄付していただいています。

皆さんから寄付された食品がどのように必要な方に届けられているのか? そこには、お腹を満たすだけでなく、明日への希望につながる支援がありました。

編集部が体験してきたフードバンクちばの活動を報告します。

増えつづける支援依頼

フードバンクちばの事務所に入ると、大量の寄付された食品が積み重なっていました。柔和な笑顔で迎えてくれた代表の菊地さんに作業の体験をする前に設立の話や現在の状況について伺いました。菊地さんは「2012年に就労支援の活動をしてきたつながりで、失業者の自立の支援の一つとして、千葉県で最初の『フードバンク』を設立しました。食品配送申請書が届いた時、こんなにも、食べるのに困っている人がいるのかと驚きました。その後も毎年依頼は増えつづけています。加えて、今回の新型コロナウイルスの影響での休業や失業で苦しい状況の家庭、アルバイトが無くなった学生や留学生からの依頼も増えてきています」と話してくれました。

依頼者の暮らしを思い浮かべて食品を選ぶ

早速、支援を必要とする家庭へ食品を宅配するため、普段はボランティアの方が行っている食品の箱詰めを体験しました。

フードバンクちばには自治体の福祉窓口などから食品配送申請書が送られてきます。そこに記載されている家族構成や電気・ガス・水道など使用可能かどうかなどの情報を読み取り依頼者の暮らしを思い浮かべて箱に詰めていきます。「そのまま食べられるものでないかためだね。栄養補助食品や、缶詰がいいかな」「甘いものがあると気持ちが和むかしら?」など、たくさんの食品を送りたい気持ちで、何度も入れ直し箱の隅々までぎっしり食品を詰めます。スタッフから「フードバンクちばには防災食の提供が多いので、すぐに食べられると喜ばれているんですよ」などと意外な話に驚きました。

そして詰め終わった箱は宅配便で依頼者に届けます。



多くの食品に
圧倒されます。

食品は種類別、賞味期限別に
仕分けされ管理されています。



お腹にたまるもの
はないかな?

申請書を見ながら食品を選びます。



子どもが3人だから、
お菓子は3個ずつ
必要ね。喜んでもら
えるかしら?

できるだけたくさん詰めていきます。



長生産直からたまねぎを
提供いただきました。

団体や企業から箱ごと寄付された
食品は、必要としている施設や子
ども食堂などが引き取りにきます。

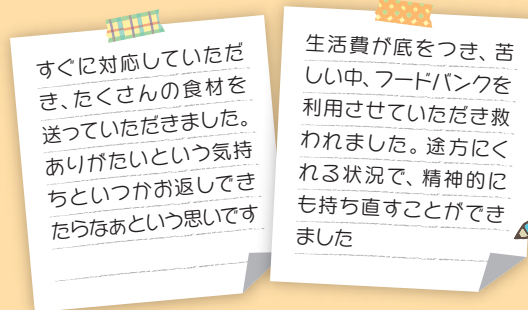


フードバンクちば代表
菊地 謙さん

フードバンクとは、生活困窮者が生活を取り戻すまでの緊急支援の1つです。依頼者が希望をもって自立していただけるように支援をしていきたいです。

明日への希望につながる支援

フードバンクちばへは多くの感謝の声が届いています。そこには、お腹を満たすだけでなく、明日への希望につながる支援がありました。



すぐに対応していただき、たくさんの食材を送っていただきました。ありがたいという気持ちといつかお返しできたらなあという思いです

生活費が底をつき、苦しい中、フードバンクを利用させていただき救われました。途方にくれる状況で、精神的にも持ち直すことができました

フードバンクちばに送られてきた感謝の手紙

多くの善意に支えられています

代表の菊地さんは、「支援の依頼者も増え続けていますが、『フードバンク』の認知度も高まり、食品の寄付や毎月決まった額を寄付してくれる人、また団体や企業の協力も増えています。地域に根ざしたフードバンク活動も増えました。しかし、依頼が増える分だけ、倉庫代や食品を詰める箱代、宅配便の送料など運営費も増えており、フードバンクの運営には大変な苦労があります」と言います。

フードバンクは、食品の提供、その食品を仕分けるボランティア、運営費用を支えるサポート会員など多くの人の善意に支えられて成り立つ活動です。

皆さんも自分のできる範囲で「フードバンク」の活動を支えていきましょう。

千葉県内のフードバンクについて詳細はこちらから



食品の受け付け

コープみらいの店舗では下記の6店舗で食品回収ボックスを設置し、年間を通じて寄付を受け付けています。

コープ東寺山店・コープ花見川店
コープ薬田台店・コープ市川店
コープ鎌倉谷店・コープ八千代店



コープみらいフードバンク
詳細はこちらから ▶

(フェイスブック)

問い合わせ

コープみらい千葉県本部 参加とネットワーク推進部

TEL 0120-925-036 9時~17時(土・日・祝日休み)



「家族葬のファミリーユ(鎌ヶ谷会場)」にて

明日への希望を応援しよう! 「フードバンクふなばし」の活動

品質に問題がないのに廃棄せざるを得ない食品を、企業や個人から寄贈していただき、必要としている方にお届けしているフードバンク。コープみらいはこの活動を応援し、組合員の皆さんからもたくさんの食品を寄贈していただいています。

今回は、コロナ禍における新たな取り組みとして、支援が必要な方に実施会場に来ていただき、食品をお渡しする「パントリーピックアップ」を開始したフードバンクふなばしの活動取材しました。



ひとり親になり10年以上…この活動はとてありがたいです

来場した方の声を伺いました

40代女性(家族:小学1年、中学1年、高校1年)

コロナ禍で仕事が見つからず不安の中、この活動のおかげで食事面の負担が軽くなりました。働けるようになりましたが、子どもは放課後ルームでもらえるコープのおやつがいつも楽しみようです。今日も真っ先にコープのあんパンを選んでいました。コープみらいの支援もありがたく思います。

40代女性(家族:中学1年)

ひとり親になり10年以上になりましたが、娘も食べ盛りになり、お米をいただけるとてもありがたいです。

20代女性(家族:6カ月、2歳)

別の会場に参加してから、今では月1回の食品配送支援もお願いしています。上の子がよく食べるようになったので、ここでお菓子をいただけるとても喜んでいます。



来場者のくらしを思い浮かべて食品を揃える

フードバンクふなばしではひとり親世帯を対象に、船橋市内で毎月2回パントリーピックアップを行っています。9月13日(日)は4組の親子が来場し、テーブルに並んだたくさんの食品の中から米やパン、缶詰、お菓子など必要な食品を選んで持ち帰っていました。

代表の笹田さんと副代表の岡田さんは来場者に明るく話しかけ、おしゃべりを通じて日々の様子を気にかけています。「家計が厳しくても主食費はなかなか削れないのでおやつ代を捻出できず、おやつを買ってあげられない家庭もあります。ここではお菓子も用意して、皆さんに喜んでもらえるようにしています」。この心づかいから来場者のくらしに寄り添った取り組みだと伝わってきます。

●笹田さん・岡田さんからメッセージ

支援が必要な方に必要な情報を届けたい

パントリーピックアップは、新しい取り組みでまだ手探りな状況です。どこの地域にニーズがあるのかもつかみ切れず「まずはやってみよう!」という精神でスタートしました。まだこの活動の認知度が低いので、支援が必要な方に必要な情報を行きわたらせることがこれからの課題です。

フードバンク
ふなばし



左) 笹田さん 右) 岡田さん

支援が必要な方に活動を伝えてください

コープみらいの組合員の皆さんにはいつも温かい気持ちでたくさんの食品を寄贈していただいております。フードバンクふなばしを立ち上げて3年目の今年はコロナ禍の影響を受け、配送依頼件数は8月末時点で211件と昨年1年間で対応した205件を大きく上回る見込みです。この厳しい現実の中、これからも支援の手が必要となりますので、今後も食品の寄贈にご協力をお願いいたします。

また、身近なところで支援が必要な方々がいらした場合には、フードバンクふなばしの活動をぜひお伝えいただければ幸いです。

※この活動は船橋市在住の方を対象としています。市外にお住まいの方は、フードバンクちば(千葉県全域)・とうかつ草の根フードバンク(東葛地域対象)などへお問い合わせください。

フードバンク
ちば



とうかつ草の根
フードバンク



(フェイスブック)

明日への希望を応援しよう!

「とうかつ草の根フードバンク」の活動



品質に問題がないのに廃棄せざるをえない食品を、企業や個人から寄付していただき、必要としている方にお届けしているフードバンク。コープみらいはこの活動を応援し、組合員の皆さんからもたくさんの食品を寄贈していただいています。今回取材した「とうかつ草の根フードバンク」には、子ども食堂を通じた明日への希望につながる支援がありました。

とうかつ草の根フードバンク 子ども食堂を通じてきめの細かい支援をめざす

「とうかつ草の根フードバンク」は、寄贈された食品を子ども食堂を通して、地域で必要としている家庭へ届けるフードバンクです。生活に苦しむ人たちが増える中、東葛地域で食品を融通し合うなど協力して活動をしていた子ども食堂のネットワークが連携して2019年に設立しました。企業からの大量の寄贈品などの食品をまとめて保管する倉庫に、約60カ所の子ども食堂が食品を取りに来るという、全国でも珍しい形のフードバンクです。

子ども食堂は誰でも参加できるコミュニティですが、それ故にさまざまな困難を抱えた子ども達も参加する「地域のよりどころ」となっています。地域に密着した活動をする子ども食堂を通じることで、さらにきめの細かい支援を目指しています。

とうかつ草の根
フードバンク
詳しくはこちらから ▶



悩みを抱える子ども達に安心できる居場所を

こがねはら
子ども食堂

仲間とともに「こがねはら子ども食堂」を立ち上げ、とうかつ草の根フードバンクの事務局長も兼ねている高橋さんに伺いました。

以前知り合いから聞いた「学校給食だけで栄養を摂っている子どもがいる。夏休みが終ると痩せて学校に来る」という貧困の現状に大変衝撃を受け、そんな子ども達にお腹いっぱい食べてもらいたいとの思いで子ども食堂を立ち上げました。家庭や友人関係などで悩みを抱える子ども達の居場所、自由に安心して過ごせる場となってほしいと思っています。ここで過ごした子ども達が今では就職し、ふらっと遊びに来てくれます。その成長した姿を見るとうれしくなり、それだけで十分な気持ちになります。



高橋 亮さん

子ども食堂を通じて知る貧困の現状

光ヶ丘
こども食堂

「光ヶ丘こども食堂」のスタッフに伺いました。

人は衣食住が足りてこそ、生きる基礎を得るのではないのでしょうか。その中でも「食」=「食べることは生命の元」ですね。未来を担う若い人や子ども達が生きづらい現在を少しでも変えていきたいものです。ちょっとしか力になれないかもしれませんが、ゼロよりはいいかな?そんな思いで子ども食堂を開いています。



光ヶ丘こども食堂では、コロナ禍により今はお弁当を作って配っています。この日は寄贈されたわかめご飯に“ミックスペジタブル”“ベーコン”“バター”を加えて洋風炊き込みごはんに仕上げました。夕方には順次申し込んだ人がお弁当を取りに来るのでスタッフは大忙し。チームワークも良く次々に出来上がっていきました。



とうかつ草の根フードバンクは、コープ新松戸店と東深井店の2店舗に食品回収ボックスを常設しています。またコープみらいでは、ほかにも千葉県内の6店舗に常設し、積極的にフードバンクに協力しています。

フードドライブに
ご協力ください
詳しくはこちらから ▶



問い合わせ コープみらい千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL 0120-925-036 9時~17時(土・日・祝日休み)

10/31
2022



コープみらい

ちばインフォメーション

編集 コープみらい 千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL:043-301-6684 FAX:043-301-6685 ホームページ コープみらい で検索!

ちばインフォメーションの紙面で募集している催し物、講座のお申し込みの際にお預かりした個人情報は、お申し込みの受付、詳しい資料やご案内の送付、必要なご連絡のために使わせていただきます。

掲載しているイベント等は、開催地域の天候や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止させていただく場合があります。

明日への希望を応援しよう!

「いちかわフードバンクbyフリスタ」の活動



品質に問題がないのに廃棄せざるを得ない食品を、企業や個人から寄贈していただき、必要としている方にお届けしているフードバンク。コープみらいはこの活動を応援しています。

市川市で「まちづくり」に関わる活動を行う「NPO法人フリースタイル市川」が、市内外の関連団体や地域住民と連携して昨年6月から「いちかわフードバンクbyフリスタ」としてフードバンク事業に取り組んでいます。今回は、その一環として市川市真間を拠点に毎月第2土曜日に行っている「フードパントリー」取材しました。



フードパントリーとは

フードバンクの活動拠点などに支援が必要な方が来場し、フードバンクに寄贈されたさまざまな食品のなかから、必要なものを無償で提供している活動です。



コープ市川店のフードドライブ専用ボックスに組合員から寄せられた食品や、コープみらいが寄贈しているお米なども提供

9月10日(土)に開催されたパントリーの会場では、来場者の受け付けを担当する方、各コーナーに並べられた食品の説明や受け渡しの補助を担当する方など、4人のボランティアさんが、来場する皆さん一人一人に優しく丁寧に対応されていました。

ボランティアの皆さんは、世代も活動に参加するきっかけもさまざまですが、同じ街に住む人が集まって「自分にできることを、できるときに」という気持ちを持って、運営をサポートしていました。



私は別の団体のフードパントリーに参加していましたが、その団体の活動が終了したので3か月前からこの会場でお手伝いしています

ほかにも、友人に誘われて参加するようになった方や、小さなお子さんとボランティアに参加している方もいらっしゃいました。

自分の住む市川で誰かの役に立ちたい

【高校生ボランティアの声】

私は学校でSDGs(国連が定めた持続可能な開発目標)について学び、特に貧困問題に関心を持ちました。今困っている人々のために、自分の住む市川でも何かできることはないかと調べているうちに、この会場でフードパントリーを開催していることを知り活動に参加しています。私は耳が聞こえづらく特別支援学校に通っていますが、この会場のボランティアの先輩たちは皆さん優しく接してください。また、来場するたくさんの人々と出会い、知り合うことができ、障がいのある私でも運営のお手伝いできたことで、とても自信が持てたんです。大学の福祉学科を目指しているのですが、私のように障がいがある人でも、こういった活動ができること、障がいのある人・ない人が関係なく、つながりあって一緒にできることがあるんだということを伝え、皆の懸け橋になりたいと考えています。

自分にもできることで恩返しをしたい

【利用者の声】



僕は飲食業で働いていますが、コロナ禍の影響で給料が1桁減るほどの時期もあり、生活が厳しくなりました。食品をいただけることで生活にも安心感を得られていますが、何よりこの会場のボランティアさんやフリースタイル市川のメンバーと月1回でも会って、顔をあわせてコミュニケーションを取れることがありがたく、おかげで心の不安も和らぐんです。自分でも何か恩返しができるかと、今年6月に市川市内で大雨とひょう(雹)の被害が出たとき、この会場の窓も破損したと聞いたので、素人ながらも網戸の修理をやらせてもらいました。修理に時間がかかりましたが、少しでも助けてもらっているお礼がしたかったので喜んでもらえて良かったです。

同じ街に住む人たちが、「支援する人」「支援される人」という立場を超えて、全ての人たちが「出番」を持てるように「つながり」を創出し、社会的関係性を構築しながら「いちかわフードバンクbyフリスタ」の活動がすすめられています。

県内フードバンクと県内生協が
フードドライブキャンペーンを実施中!
11月30日まで
食品の寄贈をご協力ください。

詳しくはこちらから



NPO法人フリースタイル市川のHPはこちらから



問い合わせ

コープみらい千葉県本部 参加とネットワーク推進部
TEL 0120-925-036 9時~17時(土・日・祝日休み)